

# 市政フォーラムの結果を報告します

## その1 出雲地域



出雲地域16地区で開催した「市政フォーラム」には、1,240人の参加があり市政に対する幅広い発言をいただきました（写真は長浜地区市政フォーラム 7月18日）

市政フォーラムは、住民の皆さんの意見を今後のまちづくりに生かすために開催しています。6月26日から7月23日にかけて実施した出雲地域で出された意見・提案の一部を紹介します。平田・佐田・多伎・湖陵・大社地域については、フォーラム開催後、順次報告します。

**Q** 治水・かんがい用水に多大な功績のあった「大槻七兵衛」の遺徳を称える事業を全市的な事業として取り組む考えはないか

**A** 大槻七兵衛は、出雲地方を干ばつや水害の脅威から守るために、全財産を投げ打って、この地の開拓事業を成し遂げた偉大な先人です。主な功績としては、高瀬川の開削、荒木浜の開拓などがあり、市では旧JR大社駅南側の広場を「大槻七兵衛翁記念公園」として整備したり、大槻七兵衛の像を設置したりするなどその功績を称えています。このほか、子どもたちにも郷土の偉人を教える機会



▲大槻七兵衛の銅像（大社町中荒木）

として、社会科の副読本「わたしたちの出雲市」を発行し、市内の小中学生に配布しています。この郷土の歴史的な人物の遺徳を顕彰し、後世へ伝えていくことは大切なことであると考えており、文化・教育・産業などさまざまな



高瀬川

**Q** 地震発生時の避難場所の耐震診断や補強などについて、安心して避難できるように、対策をお願いする

**A** 避難場所の多くは学校・コミュニティセンターを想定していますが、市内小中学校のうち、耐震診断の対象となる施設は、校舎、屋体を合わせて、56棟あります。耐震化優先度調査の結果などを踏まえて、耐震補強が必要とされた施設については、倒壊の危険度の高い施設から順次、耐震補強設計、耐震補強工事を実施する考えです。

コミュニティセンターについては、現在、改築を進めているものも含めて、約7割が地震災害への適用性があります。老朽化した建物については、計画的に改築をする予定です。

な観点から、郷土学習や文化の伝承について、どうあるべきか整理し、どのように顕彰していくかを、関係するコミュニティセンターと一緒に検討していきます。

**Q** 地震災害の対策として、住宅の耐震補強工事の普及のための助成はあるか

**A** 市では、本年度から耐震診断に要する費用の一部を助成する「出雲市木造住宅耐震化促進事業」を創設しました。耐震補強の必要性の有無を判定する一般診断と、一般診断に加え、耐震補強の計画を立てる基礎データを作成する精密診断を予定しています。

一般診断は、診断費用の3分の2を助成（限度額4万4千円）、精密診断は、診断費用の3分の2を助成（限度額12万円）します。現段階では耐震補強工事に対する助成はありますが、今後は耐震化の促進に関するPRを積極的に行うとともに市民の皆さんのニーズなどの状況を見ながら、耐震補強工事に対する助成についても検討していきます。



角こすり被害を受けた造林木

「出雲市弥山山地 人とシカ共生の森づくり審議会」の北川会長が西尾市長にシカ対策についての答申書を提出（7月16日）



**Q** 北山は、シカによる森林被害、竹林・果樹園・畑の被害が拡大している。シカ被害について、今後の対策は

**A** シカ対策については、頭数の正確な把握と生息頭数180頭の早期達成が課題であると考えています。被害防止対策としては、防護ネットや電気柵などの設置資材に対して補助金（2分の1）を交付しています。また、市としてのシカ対策基本方針を策定するため、「出雲市弥山山地 人とシカ共生の森づくり審議会」を立ちあげ、今年7月には、生息目標

頭数の早期達成、防護柵の改善などの被害防止対策、奥山での生息環境整備のための餌場造成などを提言する答申を受けました。今後は市有林などを活用した餌場づくりを検討していきます。

**Q** 大型店の開店に伴い、心配していた交通渋滞はほとんどなかった。しかし、夏休みや正月など人出の増加が見込まれる時期に、救急車が中央病院に入れなくなつたら、命に関わることで、大変である。事前に対応をお願いしたい

**A** 交通渋滞は、大きな混乱はなかったと思います。これは、十分な誘導員の配置と、多くの方が公共交通機関を利用されたことが大きいと考えています。今後も予想される繁忙期には必要な誘導員の配置と地域生活環境の保持などについて、協議していきます。また、中央病院への救急搬送も渋滞に巻き込まれて、困るようなことはありません。

**Q** 自然学習、交流活動に重要な役割りを果たしてきた「わかあゆの里」の整備計画について

**A** わかあゆの里は、一昨年の被災後、島根県の災害関連事業と調整を図りながら施設の復旧作業を行ってきました。その県事業も6月末に終了し、今後はわかあゆの里本体の再生に取り組んでいくこととなります。建設工事は、平成21・22年度の2か年を予定しており、有利な交付金制度の検討にも入っているところですので、オートキャンプ場など、



平成18年の豪雨災害で被災したつり橋の酔漢橋（すいさんばし）も架け替えが完了し、いよいよ「わかあゆの里」の整備に移ります

被災前の機能の回復に加え、新たに交流機能を有した管理棟、農業・農村体験ができる施設として建設を計画していきます。

- 平田地域の日程は、広報いずも7月10日号4ページをご覧ください。
- 佐田・多伎・湖陵・大社地域の日程は後日、広報いずもでお知らせします。
- おたずね／広報情報課 (☎21-8578)